



発見! SDGsチャレンジャー(目標15)

もとの生態系を取り戻したい お堀の外来生物駆除活動

兵庫県立篠山東雲高等学校 自然科学部
さん、 さん(共に3年生)

皆さんの身近にある水辺には、どんな生き物がいるか知っていますか？

兵庫県立篠山東雲高等学校の自然科学部が、近くにある篠山城跡のお堀で外来生物の駆除活動を始めたのは2019年のこと。近隣住民から市役所に「ウシガエルの鳴き声がかかるさくて眠れない」という苦情が出たことがきっかけでした。市役所から駆除の依頼を受けた自然科学部のメンバーは、定置網や「もんどり」と呼ばれる罠を設置し、ウシガエルと共に、アメリカザリガニや、アメリカ原産の淡水魚ブルーギルの駆除活動を行っています。

4～9月の月に1回、前夜に仕掛けた網や罠を回収し、個体数を調査しています。「お堀の泥は深く、足を取られて身体が沈んでいくような感覚が最初は怖かったです」と

さん。臭いもきつく、大変な作業にも関わらず、成果が見えづらい時期もあったそうです。しかし、地道に活動を続けた結果、個体数は確実に減り、モツゴという在来種の淡水魚も増えてきていると言います。



定置網を使って、お堀の外来生物を捕獲



捕まえた生物を仕分けて、それぞれの個体数を調査



捕まえたウシガエルは唐揚げに!

そもそもなぜ外来生物を駆除しなくてはいけないのでしょうか? 「ウシガエルやアメリカザリガニは繁殖力が強いので、雑食なので、もともといた生物を食べ尽くしてしまいます。ブルーギルも他の魚の卵を食べてしまい、放置していると生物多様性が失われてしまいます」と さんは説明します。小学校や子ども会からの依頼で開催する川での「生き物観察会」では、外来生物の問題を知ってもらおうと、地域の子どもたちへの啓発活動も行っています。外来生物のいないお堀を取り戻すべく、これからも活動を続けていきます。

[住友ファーマの取組はこちら](#)

15

SDGs 目標 15
「陸の豊かさも守ろう」

2024年7月
住友ファーマ株式会社
すこやかコンパス